

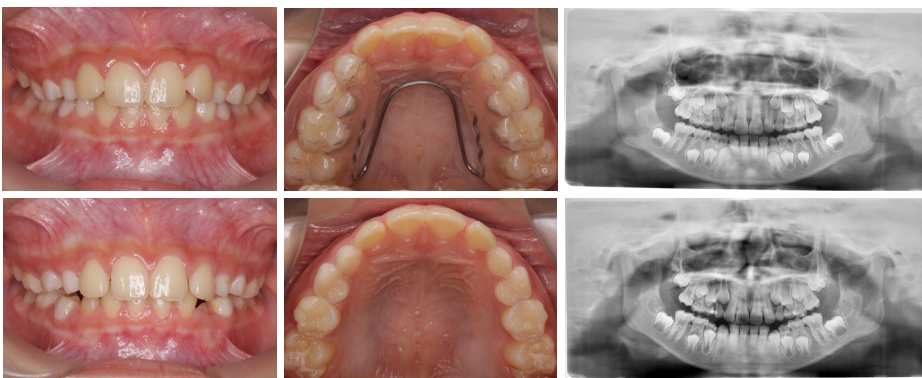
② レゾルブベータチタンワイヤーを使用した矯正装置

埼玉県所沢市開業 向陽歯科医院 高橋 喜見子先生

ベータチタンワイヤーはステンレスチールワイヤーに比べて弾性が高く、また他のチタン系ワイヤーに比べると加工性に優れるとともに、金属アレルギー症状を生じにくいという特徴があります。ただし従来使用されてきた装置としてステンレスチールワイヤーからそのまま置き換えるためには特殊なろう着法が必要となります。ろう着を使用せずレジンを使用してベータチタンワイヤーの特性を利用する矯正装置として、筆者は CLEA (Clear expansion appliance)、PLASP (Plastic sheet with spring) を考案し、多くの症例に使用してきました。今回は構成材料のベータチタンワイヤーとしてレゾルブベータチタンワイヤーを使用した症例をここに供覧いたします。

**CLEA 症例** (図 1) 8 歳女子、上顎側切歯の唇側転位を主訴に来院。上下顎 CLEA を就寝時に使用して 7 か月間側方拡大を行った結果、上顎乳犬歯間幅径は 3.0mm、第一大臼歯間幅径は 3.8mm (口蓋側歯頸部計測) 拡大されるとともに、側切歯は自然に排列され、スペースを生じた。また、パントモ上で犬歯の萌出方向改善を確認した。  
使用材料ワイヤー：レゾルブベータチタンワイヤー 0.036 インチ プラスチックシート Essix1.5mm 厚

(図 1)



**PLASP 症例** (図 2) 22 歳男性、小臼歯抜歯による骨格性下顎前突の 2 期治療終了後、保定中に上顎第三大臼歯が頬側より萌出し缺状咬合になることが予測されたため、クリアリテーナーにレゾルブベータチタンワイヤーで作製したスプリングをレジンで接着して誘導を行っている。ベータチタンワイヤーの特性によってスプリングの形状がシンプルであっても弾性と復元性に優れ、プラスチックシートによって咬合の干渉を受けずに移動することが可能である。またクリアリテーナーの材質にもよるが、レジンに接着性があるものでは保定中にそのまま利用して後からスプリングをチェアサイドで接着することも可能である。

使用材料ワイヤー：レゾルブベータチタンワイヤー 0.032 インチ プラスチックシート Essix1.0mm 厚

このように、0.032 インチ、0.036 インチのレゾルブベータチタンワイヤーは技工用ベータチタンワイヤーとしてその特性を生かして使用することにより、ステンレスチールワイヤーを使用した従来型の装置にはない特徴を持った矯正装置を作製することが可能です。

レゾルブベータチタンワイヤーは、従来のベータチタンワイヤーと同等の加工性や治療効果を持ち、さらにコストパフォーマンスの良い製品であると考えられます。

(図 2)



参考文献

関崎和夫・里見優編著 「これでわかる!各種矯正装置の特徴と使い方 顎顔面歯列の成長発育を利用した咬合誘導」 町田幸雄監修 第一版 p.62-69 ヒョーロン・パブリッシャーズ 2017 東京  
高橋喜見子著 「小児期の咬合治療を見直そう 混合歯列前期に有効な側方拡大装置 “CLEA” が・クインテッセンス 2014;33(6)132-140

販売名	一般的名称	認証番号	クラス分類
レゾルブ ベータチタンワイヤー	歯列矯正用ワイヤ	228AGBZX00065000	II (管理)

カスタマーサービス

FAX:0120-120-659

☎0120-789-123

受付時間

9:00~17:00  
(土日祝日を除く)

製造販売元

デンツプライシロナ株式会社

本社 / 〒106-0041 東京都港区麻布台1-8-10 麻布偕成ビル  
http://www.dentsply-sankin.com